西暦	年号	できごと	コメント
2005	平成 17	◇ 東城郵便局が昭和20年以来の、市郵便局が昭和22年以来の集配特定局業務を廃し、無集配特定局になる	■ 3月21日

(1)　昭和39年5月20日　住用村政だより　(創刊号)

住用村政だより

鹿児島県大島郡住用村
電話（住用）1番
編集兼発行人　師玉　登
印刷所　内山印刷

推計人口 3月1日現在
世帯数　960戸
人口　男1,786人女1,932人
計　3,718人

村政だより
創刊にあたって
村長　師玉　登

村政が村民の為めのものであると言う基本的な考えから、村民に知って戴く、知らしめる、と言う事から批判が生れ、信頼され、力強い発展建設があるのです。

村政だよりの発行の意義はここにある訳です。第三者の口伝は誤解をよく招く事があります。便り一本が受け取った人に安心感を与え両者に心の信頼が出来た時、明るい人情溢れる生きて居ると言う幸福を覚えるものです。

これからの日本経済又は国家社会は一人の努力や能力では平和や幸福は造り得る事とは出来ません。みんながんを合せ話合い団結してこそはげしい競争にたえ科学文明、キョイ化を自分のものに使えるのです。

私は過去の経験は大切ではあるが、若い手積い生活の手を見つめる事から抜け切る勇気が必要ですそして上をむいて新しい発展してゆく時勢に敏感でなければなりません、この希望に向って自から体当りをし真黒い土にいどむ戦士たる事とです。

今後村政だよりを通じ村民の方向を指標し四千村民の信頼し合うスクラムを組み若返り、笑い顔のあふれ新興住用村政たようと致したいと念願し発行のことばとします。

創刊号のよろこび
議会議長　市田常雄

今回村政だよりを発刊するに当り、御祝詞を申し上げます。

本村の現状は、非常な矛盾と不完全さを含んでいると云えるでしょう時、師玉村長は村政の発展を期して村づくりに非常な革新と創意の意気に燃えて躍進住用村のスタートについたと考えられます。

その一環としてこゝに村政だよりを発刊の運びと至ったものであることを深く信じますとき、村長の着想と勇敢に村政に取組む真摯な態度に慶賀と期待を申上げる次第であります。

村政だよりの本命は村長の言葉に同感であり重複をさけましょう村政だよりに依って村民に普く村の内状を密に公開して認識を啓発する事こそ村民の信頼と協力が生れてくるものではないかと考えられますので言を強めさせていただきます。

最後に本企画が龍頭蛇尾の終末にならないように御努力と御健斗を希求して創刊号のよろこびの詞と致します。

タイトル・デザインの移り変わり

二号（昭三九年七月）から

二四号（昭四二年三月）から

95号（昭51年1月）から

108号（昭52年7月）から

101号（昭51年8月）から

109号（昭52年9月）から

一四二号（昭六十年四月）から

一四三号（昭六十年六月）から

133号（昭58年11月）から

211号（平6年5月）から

232号（平8年5月）から

251号（平10年6月）から

266号（平12年9月）から

▲ 現在地に移る前の住用郵便局の局舎（西仲間字上川（うえかわ））。昭和28年11月完成

引戸が取り付けられた局舎 ▶

▲ 前局舎があった場所。左手のコンクリートの段が入口。後方に見える家は津田静男（せいお）さん宅。前の道は旧国道

昭和48年完成の現在の局舎。完成して間もない頃ＮＨＫの宮田　輝アナウンサーが、名瀬市で「のど自慢」の公開放送の後、来訪。

写真は前列左から
和田直良（なおりょう）さん・川畑兼吉（けんきち）局員・宮田　輝さん・井上　義（よし）局長・井上　司局員
後列左から
市田新一郎局員・廣畑正悟（せいご）局員・廣畑輝男局員。
右手の子供は、満永幸男（ゆきお）くん

完成から22年経った現在の局舎（石原字立籠（たてごもり）４）
窓に格子が取り付けられている。平成17年撮影

村政だより（昭和48年〔1973〕5月25日号）から

地域集団電話が開通

昭和四十七年十一月に始まった地域集団電話工事がこのほど完成しました。台数は

住用地区　一八四台
東城地区　一五五台

計三三九台で、三月十四日午前十時に開通しました。

午後二時からは開通式が中央公民館で行われ、次の代表五人が初通話をしました。

師玉　登村長
（大山迪充氏〔東京〕へ）
河野博夫議会議長
（時田次則関西住用会会長へ）
田畑清寿さん
（田畑京子さん〔名古屋〕へ）
田畑しげ子さん
（用りう子さん〔名古屋〕へ）
百合園京子さん
（田崎まつえさん〔兵庫県〕へ）

次いで祝賀会に移り、余興を楽しみながら開通を喜び合いました。

記念通話をする田畑清寿さん（戸玉）。その左は田畑しげ子さん（市）

地域集団電話とは、電話加入の申し込みが一定数集まった段階で、電電公社と契約した電話。ダイヤル自動・個別呼び出しの共同電話で、施設設置負担金と月額基本料金が一般加入電話より安かった。

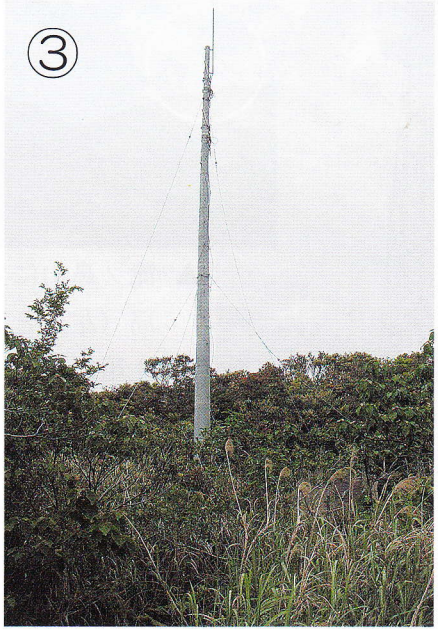
山間簡易郵便局

▼ 昭和52年（1977）３月31日から平成８年（1996）10月30日まで山間簡易郵便局があった初代局長、武　豊成さん宅。山間370番地。平成17年撮影

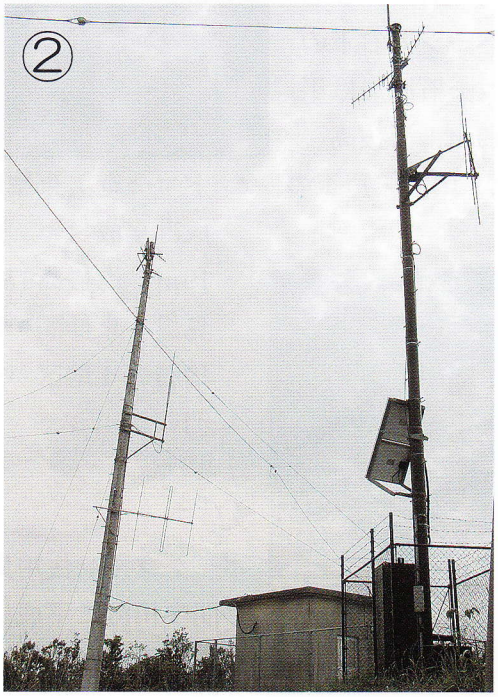
現在の山間簡易郵便局（山間416）と第３代局長の富ひずるさん。第２代局長はひずるさんの父、富眞志さんで、平成８年11月１日から平成12年８月31日までここで局長を務めた。平成17年撮影

防災行政無線の開局　平成４年（1992）５月１日

平成２年の台風19号による大被害の経験を生かして設置された。総事業費１億５千965万円。



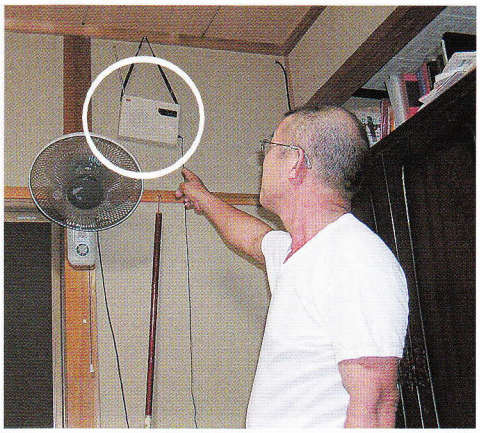
滝ノ鼻山の頂上近くの尾根に立つ中継局。親局（①・②）から送られてきた情報は、ここで中継されて、各集落の屋外拡声器と各戸別の受信機へ流れる



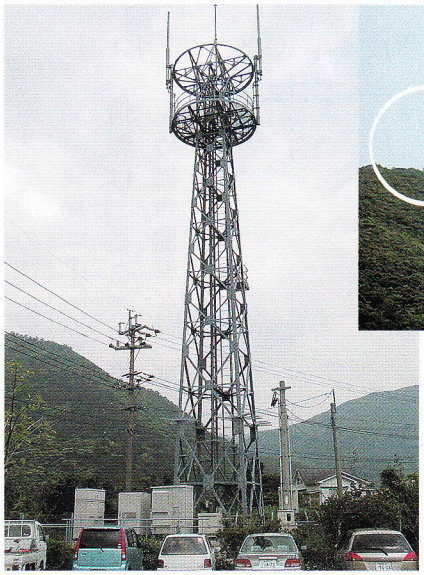
役場親局の発信塔

③の中継局から情報を受信して集落民へ知らせる屋外拡声器。平常時には一般的な連絡や案内に使う。写真は西仲間公民館横に立つ屋外拡声器

▲ 役場の親局。情報は②の屋外発信塔から③の中継局へ送られる。放送しているのは総務課の田中ひかるさん（平成17年）



③の中継局から各戸別の受信機へ流れてくる情報を聞く。戸玉の諏訪原清高（すわはらきよたか）さん宅で。（平成十七年）

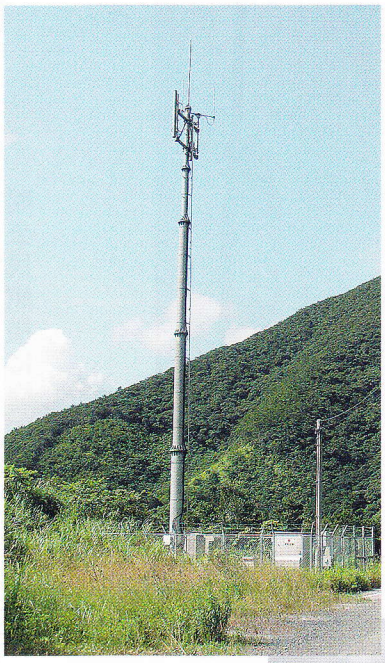


▲ ドコモ住用局。完成平成11年。地上高29.2m，海抜高32.3m。西仲間地区が対象範囲

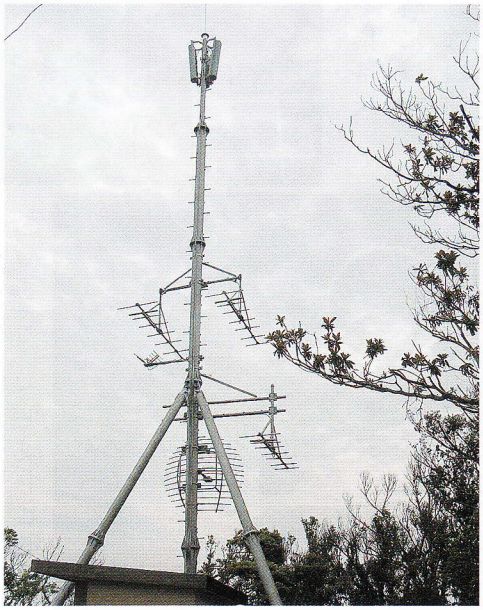
▲ 滝ノ鼻山に立つａｕ（エイユー）住用局（左）とドコモ石原局（右）。ａｕ住用局についてはこのページの右下の写真と説明を参照。ドコモ石原局は平成17年に完成。地上高19m，海抜高450m。対象範囲は石原・山間・戸玉の３地区と市地区の一部

▲ ドコモ奄美東城局。完成は平成11年。地上高19m，海抜高97.2m。見里・東仲間・川内・摺勝の４地区が対象範囲

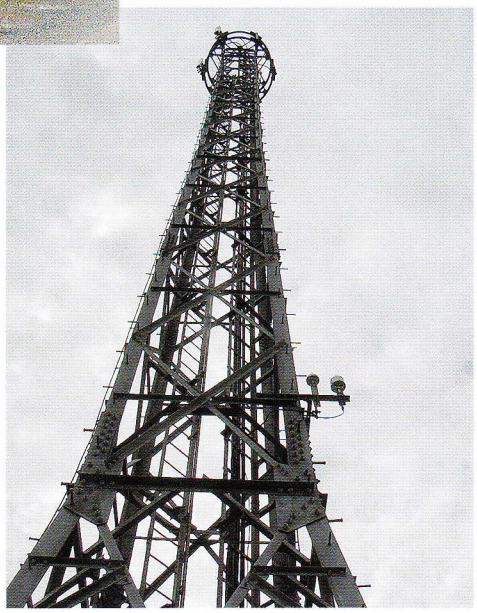
▲ ＮＴＴ住用電話交換局（西仲間）。完成は昭和52年



◀ ボーダフォン住用局。西仲間字川渡に平成12年完成。地上高20.9m。対象範囲は公表しない。デジタルツーカからＪ－フォンと社名を変更して現在のボーダフォンとなった

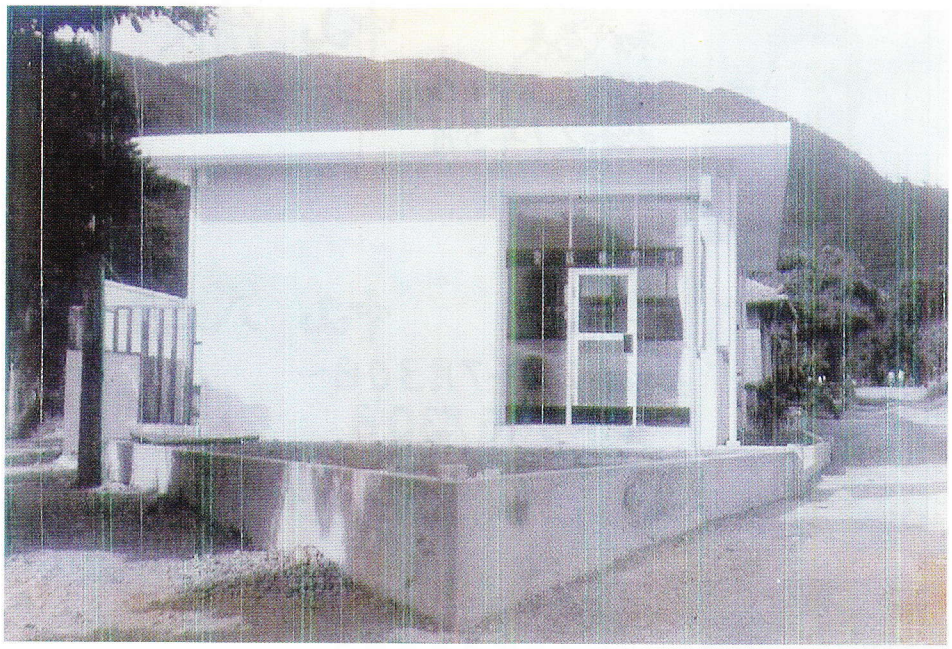


▶ ＮＨＫテレビ放送中継所。東仲間と見里の中間にある船蔵山の高台に昭和五〇年に完成



▶ ａｕ住用局（石原）。完成平成十二年。地上高四〇メートル。西仲間・役勝・山間・戸玉・市が対象範囲。建設費六千万円から一億円程度

東城郵便局67年の歩み



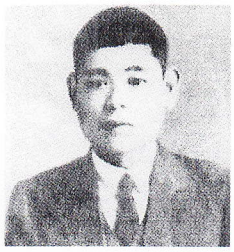
落成当時の庁舎
（昭和３５年）

ご　挨　拶

このたび、郵便区調整により東城郵便局が集配特定局から無集配特定局に変わることとなりました。
昭和十三年に無集配特定局として開局し、昭和二十年には集配特定局として集配業務を開始しました。それから６０年経った今年、郵便区調整という大きな波が来ました。
先輩方から続いてきた地元に愛される郵便外務員がいなくなるのは寂しいですが、東城郵便局としての業務は続いていきますので、なにとぞ皆様のご指導ご鞭撻のほど伏してお願い申し上げます。

平成１７年３月
東城郵便局長
中　島　秀　一

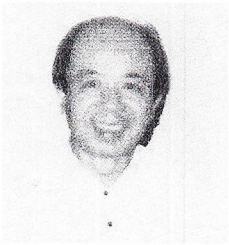
歴代東城郵便局長



初代局長　中山 清長
昭和13年10月1日～
昭和21年5月

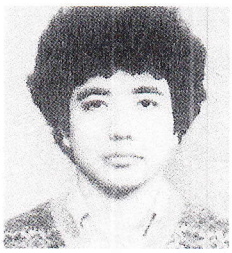
二代局長　中山 八工子
昭和22年7月30日～
昭和49年6月30日

三代局長　脇田 正道
昭和49年9月27日～
昭和57年10月26日



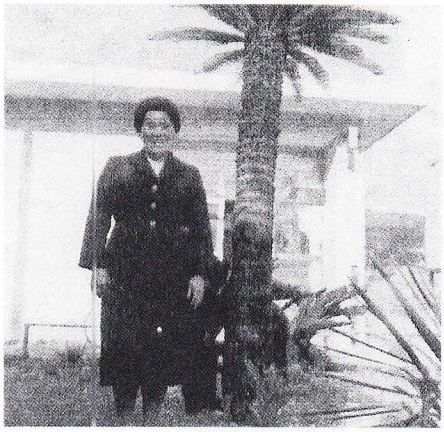
四代局長　中島 一浪
昭和57年12月3日～
昭和61年3月31日

五代局長　元井 千尋
昭和61年4月1日～
平成15年3月31日



六代局長　中島 秀一
平成15年3月24日～
現在

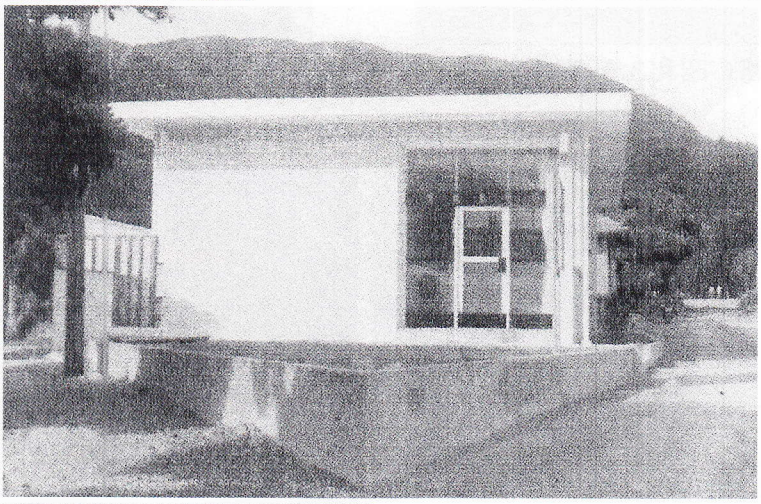
写真でつづる東城郵便局



◀局前のソテツ横での1枚

二代目　中山八ヱ子局長

▶事務室での1枚



▶新局舎落成（昭和三十五年）

▲　新局舎落成式（昭和３５年）

				1	2		3
4		5	6		7		8

1．中山八ヱ子局長
2．実　エミ子
3．森元　昭夫
4．大野　華
5．屋野　勝
6．浜崎　誠二
7．中島　一浪
8．脇田　正道

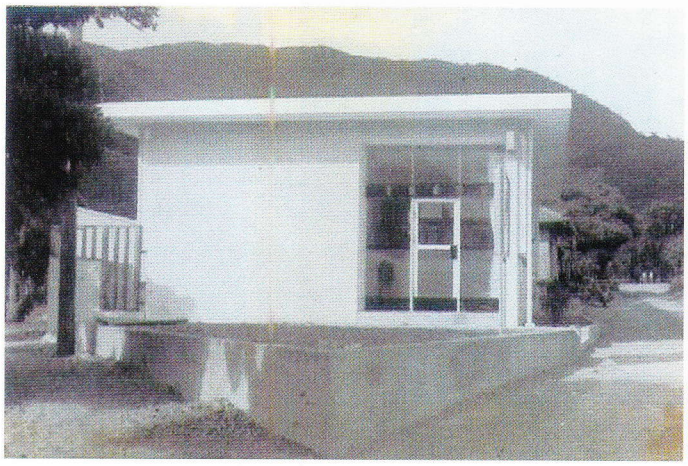
1．中島　秀一局長
2．林　　文代
3．中山多恵子
4．宮澤致恵子
5．東　　洋一
6．東　進一郎
7．松浦　徳仁
8．相良純一郎

		1		
2	3		4	5
6	7		8	

▼　集配特定局最後の日（平成17年3月20日）

局前道路（ 昭和３５年頃）

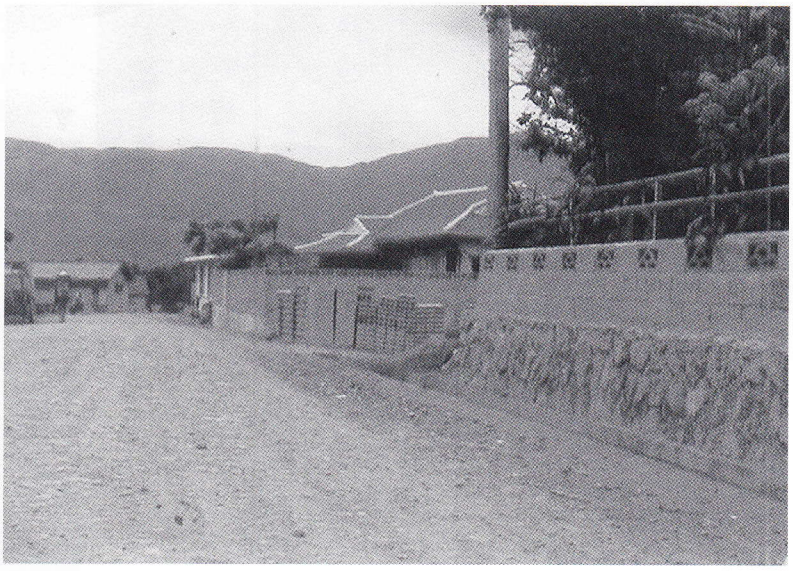
局前道路（ 現在　国道５８号）



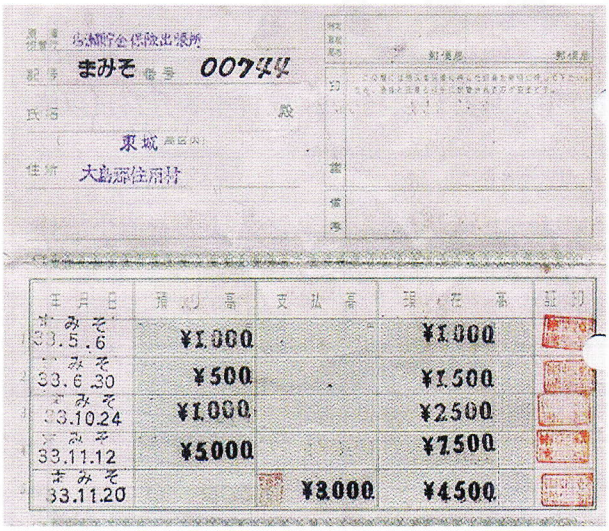
落成時の局舎（ 昭和３５年）

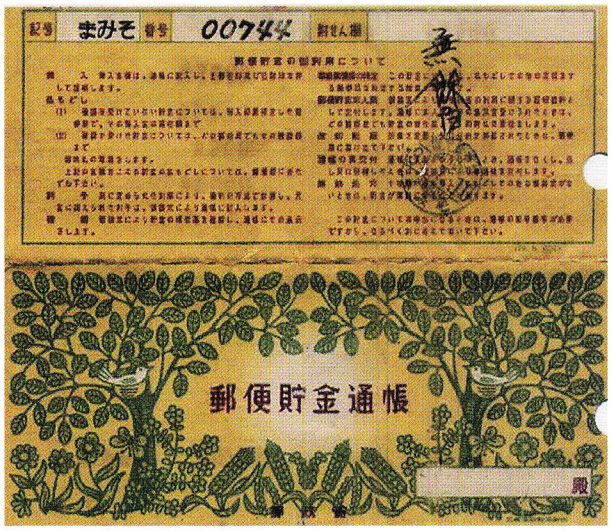
現在の局舎

昭和４１年頃の城のワラブぇンキャ



昭和４１年に改修された集落内道路から眺めた局舎





昭和３３年当時の郵便貯金通帳

昭和３１年当時の給与袋

四代目　中島一浪局長　事務室での１枚

平成１５年頃の窓口

現在の窓口

東城郵便局概要今昔

		昭和29年当時	平成17年３月21日現在	平成17年３月21日以降
所在地		城85番地	城388番地	城388番地
局舎状況		平屋トタン葺	コンクリート造平屋建	コンクリート造平屋建
延床面積		12.25坪	88平方メートル	88平方メートル
敷地面積		150坪	254平方メートル	254平方メートル
配備		自転車郵便１台	バイク４台	
		自転車電信１台	軽自動車１台	
担当地区の世帯数と人口	見里世帯数	76	93	
	人口	332	228	
	東仲間世帯数	49	24	
	人口	196	55	
	川内世帯数	109	89	
	人口	459	201	
	摺勝世帯数	14	13	
	人口	67	40	
	城世帯数	93	65	
	人口	400	123	
	和瀬世帯数	60	31	
	人口	301	78	
	総世帯数	401	315	
	総人口	1755	725	
職員数		５名	５名	２名
運送便		名瀬－古仁屋間上下１便	名瀬－市間上下１便	

東城郵便局ゆかりの会出席者名簿

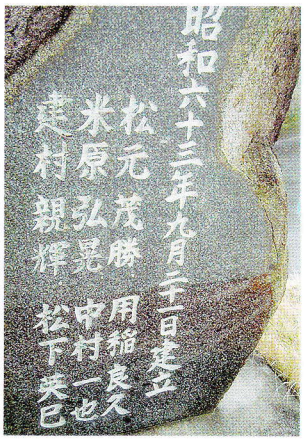
森元　昭夫　　松林　徹昌　　池田　良雄
大野　　奉　　屋野　　勝　　元井　千尋
俵　　豊蔵　　藤野　茂幸　　久志　一郎
米原　幸仁

中島　秀一　　相良純一郎　　東　　洋一
東　進一郎　　松浦　徳仁　　中山多恵子
林　　文代　　宮澤致恵子　　前田　静代

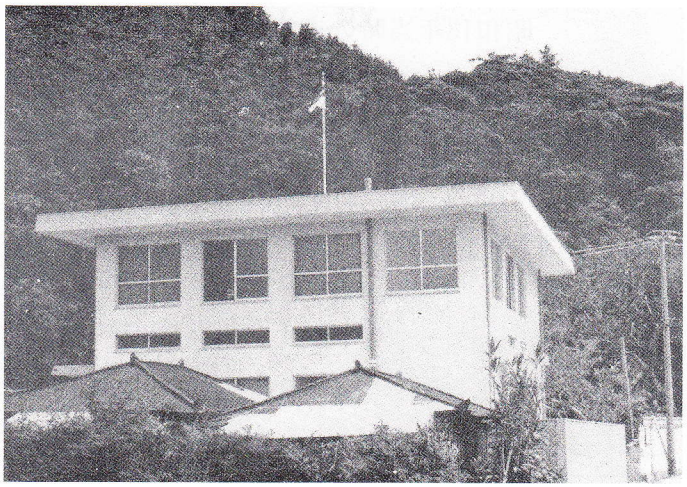
市郵便局の沿革

開局50周年を迎えた市郵便局（ 昭和63年当時）

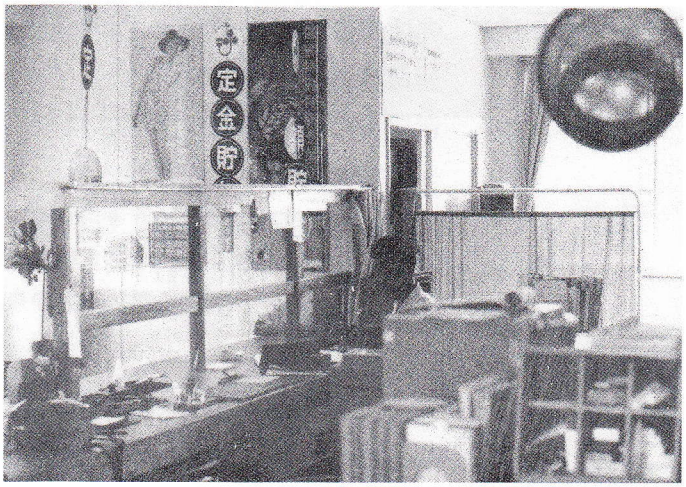
昭和63年に建てられた開局50周年記念の石碑



石碑に刻まれたその当時の職員



昭和46年の新築時の市郵便局外観



昭和46年の新築時の市郵便局内の様子

市郵便局の歩み

昭和13年８月15日	局舎を新築する 建物13.5坪　敷地40坪
９月21日	市郵便取扱所が開所し、郵便為替貯金の取扱を開始する（局員２名）
15年12月１日	無集配三等局となり電報配達及び簡易保険・郵便年金事務の取扱を開始する（局員３名）
22年７月１日	集配局に昇格する（局員４名） 電話機を取り付ける
11月５日	電信電話事務を開始する
29年４月１日	ＮＨＫ受信料集金委託事務の取扱を開始する（局員５名）
10月28日	新品の赤自転車が配車され、自転車による配達を開始する
32年５月１日	局舎の建物を1.5坪増築し、15坪となる（局員６名）
34年11月20日	局舎に電灯が設置される
36年８月１日	市郵便局と住用郵便局の間に交換所が設置される
39年３月６日	局舎の建物を５坪増築し、20坪とし、敷地72坪の一部ブロック木造平屋が完成する
44年５月１日	市郵便局と住用郵便局の間に交換所が廃止される 自動二輪車による郵便の直送が始まる
11月１日	郵便用赤バイクが配車され、配達業務運行が向上する
45年５月20日	新局舎の建築準備が開始される（鉄筋２階建が承認される）
46年３月２日	新局舎の新築工事が着工される（瀬戸内町　原田建設）
６月30日	新局舎が完成する

昭和十三年に開かれた市郵便取扱所

昭和13年当時の市集落の人々

開局以来よりの職員名簿

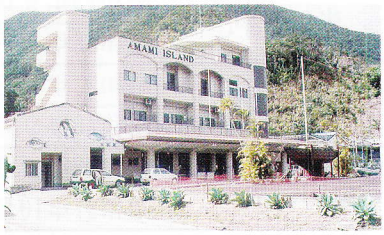
氏　名	採用年月日 退職年月日	現住所
松元　栄 （初代局長）	昭和13年９月21日 昭和42年６月30日	名瀬市
白間　常二	昭和13年９月21日 昭和15年７月14日	長崎
松元　カズ	昭和15年７月15日 昭和21年12月31日	兵庫 （死亡）
市田　忠二	昭和18年10月１日 昭和18年12月31日	
松元　カツ	昭和19年１月２日 昭和19年９月30日	山間
米　スミ子	昭和19年10月２日 昭和21年８月31日	市
中村　寿雄	昭和21年９月１日 昭和22年４月20日	東京
市田　信博	昭和22年４月21日 昭和23年９月30日	広島県
米　正利	昭和23年９月20日 昭和26年４月１日	鹿児島
用　頼雄	昭和22年７月１日 昭和26年９月30日	市 （死亡）
市田　忠二	昭和22年１月１日 昭和27年10月30日	
松下　典雄	昭和26年10月１日 昭和35年５月14日	市 （死亡）
田川　繁光	昭和27年11月１日	市
染川　栄光	昭和27年11月１日	市
米原　弘晃	昭和29年６月1日	市
生元　高男	昭和30年12月15日 昭和36年12月10日	名瀬市
中村　一也	昭和35年７月１日 昭和37年４月10日	市
松元　茂勝	昭和36年９月１日	市
森田　重久	昭和37年４月1日 昭和37年８月15日	名瀬市
用稲　良久	昭和37年10月１日	市
中村　一也	昭和42年８月31日	市

開局以来よりの電報配達者名簿

氏　名	採用年月日 退職年月日	現住所
西田　栄光	昭和31年１月１日 昭和32年12月31日	市 （死亡）
米　国信	昭和32年１月１日 昭和33年３月31日	市
中村　一也	昭和33年４月１日 昭和35年６月20日	市
西田　福夫	昭和35年６月21日 昭和35年10月31日	市
恵　勇雄	昭和35年11月１日 昭和37年10月31日	千葉県
森田　安豊	昭和37年11月１日 昭和38年５月１日	市
西田　福夫	昭和38年５月９日 昭和38年８月20日	市
溜　博二	昭和38年８月21日	市
市田　新一郎	昭和39年１月31日 昭和40年１月19日	住用局
西田　福夫	昭和40年１月20日 昭和40年５月３１日	市
白間　孝司	昭和40年６月１日 昭和43年９月30日	市
白間　キユ子	昭和43年10月１日	市

昭和46年７月24日時点
（昭和46年発行の市郵便局沿革史より抜粋したもの）

観光・イベント

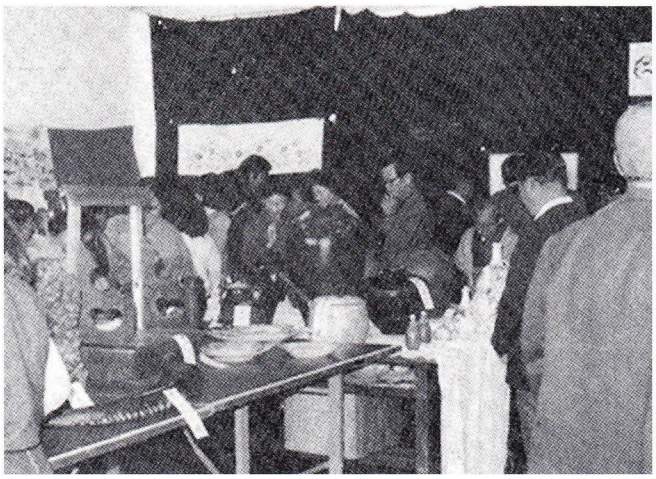
西暦	年号	できごと	コメント
1947	昭和 22	◇ 奄美復興博覧会が名瀬で開催される	
1961	36	◇ 常陸宮（義宮）殿下がマングローブを御観察になる	
1968	43	◇ 天皇皇后両陛下（当時皇太子・皇太子妃）がマングローブを御観察になる（４月８日　写真右）	越次峠のお立ち台からマングローブ群生地を御覧になる天皇皇后両陛下
		◇ 神屋の原生林が天然記念物の指定を受ける	
1971	46	◇ 高松宮・同妃殿下がマングローブを御観察になる	
1972	47	◇ 昭和天皇皇后両陛下がマングローブを御観察になる	
1973	48	◇ 常陸宮殿下・同妃殿下が御来村になる	
1974	49	◇ マングローブ国定公園が奄美群島国定公園特別保護地区に指定される（２月15日　面積71ヘクタール）	■ 奄美大島に奄美群島国定公園が誕生したのは、環境庁が発足した３年後の昭和49年で、住用村のマングローブは国定公園の「固有、準固有植物の自然林」の範疇に属するとして特別保護区となった
1977	52	◇ 市地区文化祭が催される（次ページ参照）	
1984	59	◇ 世界野生生物基金総裁のエジンバラ公フィリップ殿下が御来村になり、マングローブを御視察になる	
1986	61	◇ 第１回三太郎まつりが山間農村公園で行われる	
1987	62	◇ 内海公園の整備事業が始まる（10年計画）	
		◇ 赤崎公園を整備する	
1988	63	◇ 山間に奄美アイランドがオープンする（３月５日）	 博物館・動植物園として学べて楽しめる奄美アイランドがオープン。昭和63年
1991	平成 3	◇ 内海公園に野外ステージが完成する	
1993	5	◇ 内海公園にバンガローが２棟完成する	
1995	7	◇ 内海公園にバンガローが２棟完成する	
1996	8	◇ 内海公園に管理棟が完成する	
		◇ ゴルフ場建設促進村民総決起大会が開催される	
		◇ 秋篠宮、同妃殿下がマングローブを御観察になる	
1997	9	◇ 内海公園に浮桟橋が完成する	
2000	12	◇ マングローブ国定公園特別保護地区が「新かごしま百景」に選ばれる	■ 「21世紀に残したいふるさと・鹿児島の景観」をテーマに選定が行われた
2001	13	◇ 秋篠宮殿下が学術研究会参加のため御来村になる	
		◇ マングローブパークがオープンする（７月20日）	■ 運営はマングローブ公社
2002	14	◇ 常陸宮殿下・同妃殿下が御来村になる	

内海のほとりにバンガロー４棟が建ちそろう。平成７年

建設中の大型観光施設「黒潮の森マングローブパーク」。平成12年

ゴルフ場建設促進村民総決起大会。住用中学体育館で。平成８年６月

広報「すみよう」　昭和61年（1986）１月１日号より



先祖からの生活用具

十数年ぶりの米つき節

村　初の文化祭

市地区が皮切り

復活した棒踊り

市地区文化推進委員会と村教育委員会主催による、市地区文化祭が、さる十一月二十三日午後、市校体育館を主会場に盛大に催されました。約二百人が参加。

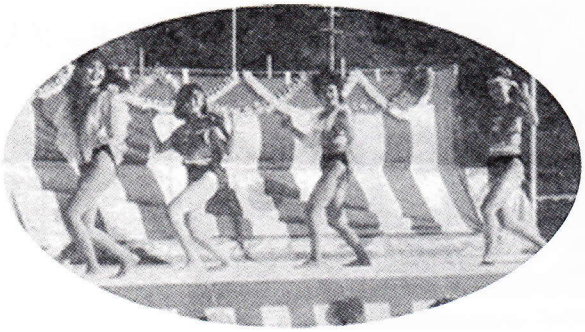
この文化祭は、歴史の古い市校区の文化遺産を広く村民に紹介し、村内各校区の文化的行事に対する認識と理解を深めるのがねらいで、住用村では初めての催しでした。

展示会場には、先祖から伝わる生活用具や民芸品、各グループによる生け花や書画、手芸品などおよそ二百点が出品され、市地区の文化事業に対する関心の深さがうかがわれました。

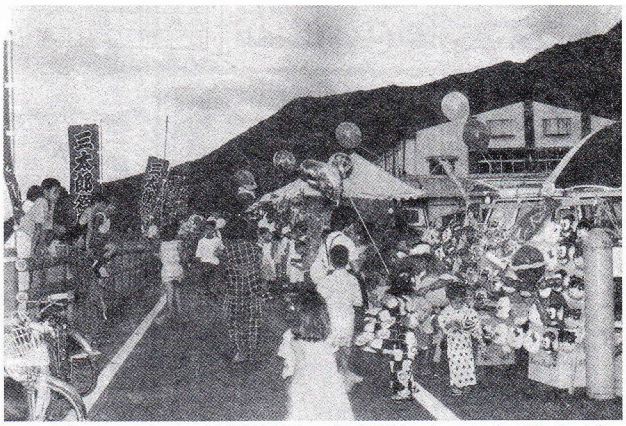
午後二時から発表会に移り、市保育所園児のダンスを皮切りに数々の民俗芸能が発表されました。十数年このかた踊られていない棒踊りや、米つき節なども披露されました。また住用三味線クラブと新民謡研究会による民謡、ザ・トビラーズによるバンド演奏などが花を添え、午後四時半、盛況のうちに第一回市地区文化祭の幕は閉じました。

第１回　三太郎祭りから

山間　昭和61年（1986）７月27日



脚線美を誇るムぇラブぇンキャのダンス



露天の店も産業道路（県道）に立ち並んだ

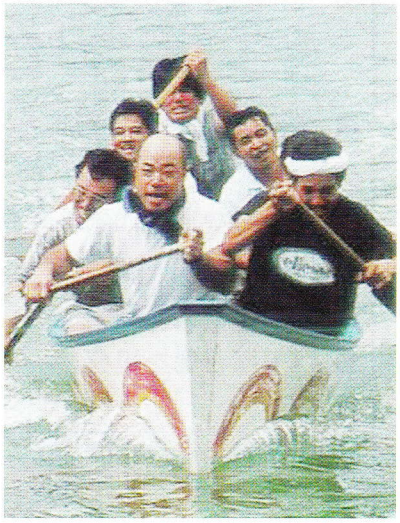
御来村を歓迎する村民たちに気さくに話しかけられる秋篠宮殿下と妃殿下。村民たちにとって、なによりも嬉しい一日となった。「また住用にお越し下さい」に笑顔で答えられた。
平成８年６月４日

マングローブでのカヌーツーリング（カヌーでマングローブ群生地を一巡りすること）が大人気。平成７年

マングローブパークの完成を記念して行われた「マングローブジョギング大会」
平成14年

住用村文化財「やちゃ坊岩屋」（川内）で三味線（さんしん）を手に「やちゃ坊節」を歌う坪山　豊さんと当原ミツヨさん。平成２年

鹿児島市内（鹿児島港本港（ほんこう）区）で行われた「鹿児島アイランドフェスタ」で「さお踊り」を披露する住用村連合青年団。
平成10年10月25日



舟こぎ競争も行われた
第12回三太郎まつり

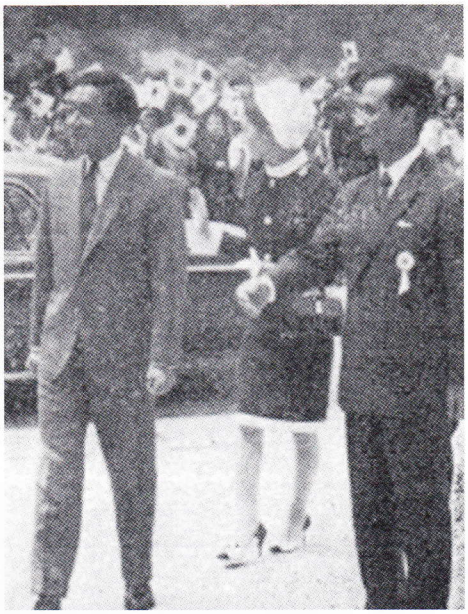
第十二回三太郎まつりの抽選会でスポンサー大賞を引き当てた山間の知念禮子さん（写真中央）。賞品の乗用車の前で。平成九年八月十日

要人等の来訪

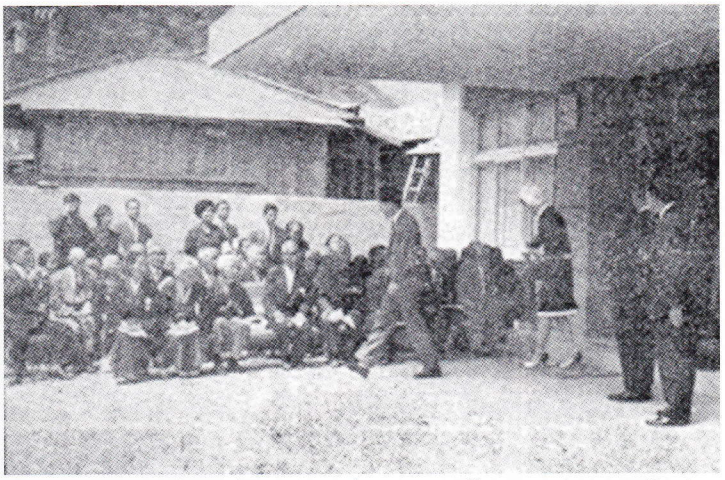
西暦	年号	で　き　ご　と	コ　メ　ン　ト
1921	大正 10	◇ ２月９日（旧正月の元日）、民俗学者の柳田國男が和瀬峠・三太郎峠を経て西仲間を訪れ一泊する	■ 翌日は役勝を経て網野子へ向かう
1961	昭和 36	◇ 常陸宮殿下が御来村になる	■ 当時は義宮殿下
1968	43	◇ 天皇・皇后両陛下が御来村になる	■ 当時は皇太子・同妃殿下
1971	46	◇ 高松宮殿下・同妃殿下が御来村になる	■ 興味深くマングローブを御覧になる
1972	47	◇ 昭和天皇・皇后両陛下が御来村になる。中央公民館で御休憩の後、マングローブを御覧になる	■ 第27回鹿児島太陽国体に御臨席後、奄美大島に御来島
1973	48	◇ 常陸宮殿下・同妃殿下が御来村になる	
1974	49	◇ 亀岡建設大臣が来村する	
		◇ 元横綱朝潮が来村する	
1978	53	◇ 武島　斉氏が35年ぶりにベトナムから帰省する	
		◇ 鎌田県知事との「車座で語ろう会」が開催される	■ ２月６日、奄美で２回目
1984	59	◇ イギリスのエジンバラ公フィリップ殿下が御来村になる	■ マングローブ群生地を御視察
1985	60	◇ 東京奄美会一行が来村する	
		◇ 衆議院建設委員会委員の一行が来村する	■ 61年三太郎バイパス起工式が行なわれる
1987	62	◇ 綿貫国土庁長官が来村する	
		◇ 県議会議長会（会長　宮原光志）一行が来村する	
1988	63	◇ 屋宮輝彦氏がブラジルから53年ぶりに故郷西仲間へ帰省する	
1991	平成 2	◇ 佐藤国土庁長官が来村する	■ 台風19号被災地を視察
1994	6	◇ 全国離島市町村代表が村を視察する	
1996	8	◇ 秋篠宮殿下・同妃殿下が御来村になる	■ マングローブを御見学
		◇ 伊藤国土庁長官が村を視察する	
1997	9	◇ 東京奄美会の一行が来村する	
2001	13	◇ 秋篠宮殿下が御来村になる	■ 学術研究会に御参加
2002	14	◇ 常陸宮殿下・同妃殿下が御来村になる	
2003	15	◇ 奄美群島日本復帰50周年記念式典に御臨席のため、天皇・皇后両陛下が御来島になる	■ 住用村からも代表が式典に参加
2004	16	◇ 林国土交通副大臣が来村する	■ 奄美体験交流館を視察
		◇ 公明党冬柴幹事長が来村する	■ 戸玉採石場を視察
		◇ 伊藤県知事が来村する	■ 同上

昭和四三年（一九六八）四月八日
天皇・皇后両陛下御来村
（当時、皇太子殿下・同妃殿下）
午後十二時十五分、役場前に御到着。
日の丸を振る村民にお手を上げお応えになる両陛下

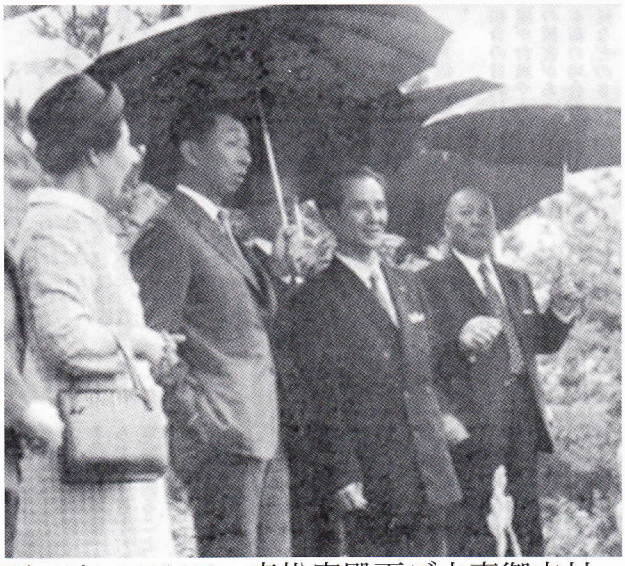
◀



師玉村長のご案内で役場にお進みになる両陛下



▲ 役場前で高齢者や功労者にお言葉をかける両陛下



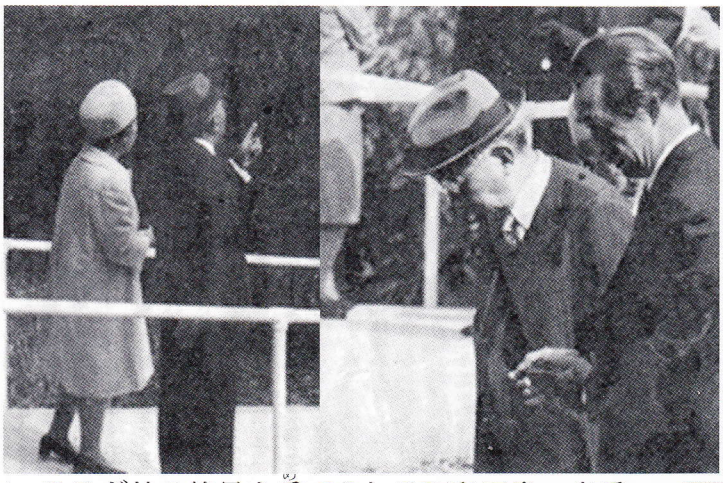
昭和46年４月21日　高松宮殿下ご夫妻御来村

昭和47年（1972）10月26日　昭和天皇御来村

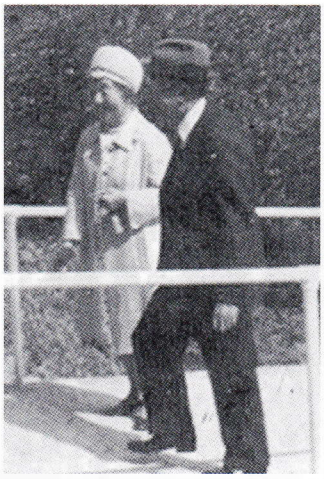
▲師玉村長のご説明をお聞きになりながらマングローブを御覧になる両殿下

▲　中央公民館前に並んでお迎え

◀ 両陛下が御休憩のため中央公民館に御到着

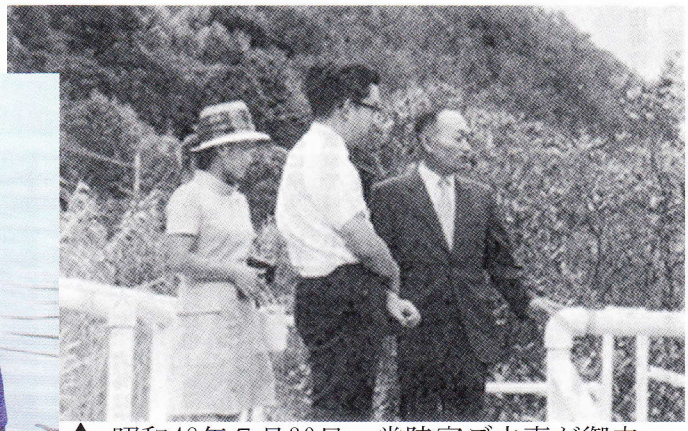


◀ 山間（やんま）のひるぎ自生地で。初島琉球大学教授からご説明を受けられ、御熱心に御観察になる昭和天皇



◀ ひるぎの原生林に向かわれる昭和天皇・皇后両陛下

▲ ひるぎ林の絶景を愛（め）でられる昭和天皇・皇后両陛下。昭和47年10月26日



▲ 昭和48年７月20日、常陸宮ご夫妻が御来村。田畑助役のご説明を熱心にお聞きになりマングローブ原生林を御覧になる

▲ 平成14年５月12日、再び御来村の常陸宮ご夫妻。ボートでマングローブをご観察。宮殿下の後方はご説明役の森田豊範氏。その左はお付きの方、その前は鳥類学者の方

▲ 昭和天皇・皇后両陛下をお迎えするために中央公民館前でお待ち申し上げるお年寄りの皆さん

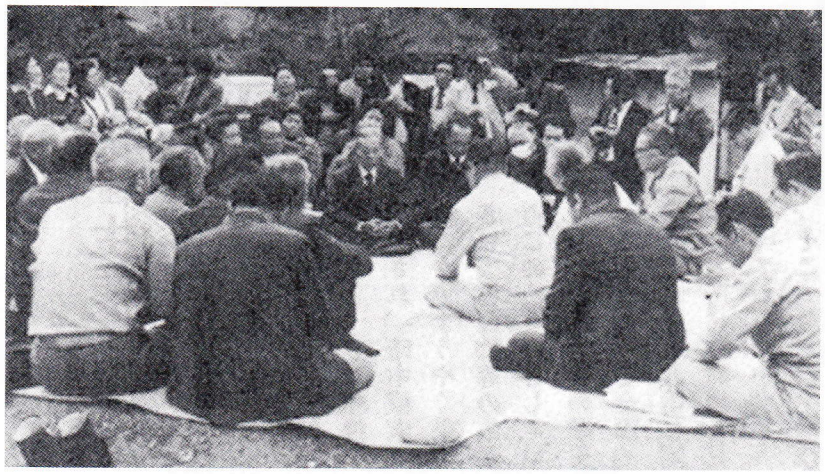
◀ 両陛下奉迎をつつがなく終えてほっと一息の役場職員一同。中央公民館前で。昭和４７年10月26日撮影

◀ WWF（世界野生生物基金）総裁の英王室エジンバラ公フィリップ殿下が昭和59年（1984）10月31日に御来村。マングローブに住む野生生物を御観察。写真左からフィリップ殿下、通訳の方、ご説明役の方、ボートの持主で操縦の山下茂一（しげかず）さん

▲ 平成８年６月４日、秋篠宮ご夫妻が御来村。マングローブパークの展望台に向かわれる両殿下

▶ 平成十三年一月十七～一八日に奄美アイランドで行われた学術研究会に御参加のため御来村の秋篠宮殿下。寿村長のあいさつをお受けになる。マングローブパークで

▼「知事と車座で語ろう会」。鎌田県知事が来村し、村民とひざを交えて懇談した。西仲間公民館前の広場で。昭和53年２月６日



▲ 元横綱朝潮がひょっこり役場を訪問。師玉村長と役場職員たちと記念写真。昭和49年12月４日

表彰・叙勲

西暦	年号	できごと	コメント
1966	昭和 41	◇ 住用村が国民年金優良町村として県知事表彰を受賞	
1967	42	◇ 住用村が国民年金優良町村として県知事表彰を受賞	■ 再表彰
1979	54	◇ 永野　恵信（えいのぶ）氏（川内）　勲六等単光旭日章（たんこう）	■ 旭日章（きょくじつ）とは、顕著な勲績に対する叙勲
1981	56	◇ 三浦　順次氏（役勝）　勲五等瑞宝章	
1982	57	◇ 脇田（わきた）　正道（せいどう）氏（城）　勲五等瑞宝章	■ 瑞宝章（ずいほう）とは、積年の功労に対する叙勲
1991	平成 3	◇ 師玉（しだま）　登氏（見里）　勲五等双光旭日章（そうこう）	
		◇ 久保　忠雄氏（山間）　勲六等単光旭日章	
1994	6	◇ 中山八エ子（やえこ）氏（城）　勲五等瑞宝章	
1996	8	◇ 河野（かわの）　喬次（たかじ）氏（役勝）　勲四等瑞宝章	
		◇ 當（あたり）　義二氏（城）　勲六等単光旭日章	
1997	9	◇ 大井　重雄氏（城）　勲五等瑞宝章	
		◇ 得山　茂敏氏（西仲間）　勲五等瑞宝章	
1998	10	◇ 石原　和眞（かずま）氏（石原）　勲五等双光旭日章	
		◇ 元井信一郎氏（役勝）　勲五等双光旭日章	
		◇ 土屋　敬一氏（東仲間）　勲六等単光旭日章	
		◇ 用稲（よういね）　松男氏（市）　勲五等双光旭日章	
2000	12	◇ 前田　公正（こうせい）氏（城）　勲五等双光旭日章	
2001	13	◇ 郡（こおり）　森儀（もりぎ）氏（市）　勲六等瑞宝章	
2003	15	◇ 寿　恵和子（えわこ）氏（山間）　勲五等瑞宝章	
2004	16	◇ 昇（のぼり）　千代喜氏（西仲間）　旭日単光章	■ 平成16年から勲等をつけなくなる
2005	17	◇ 嘉納　大信（おおのぶ）氏（山間）　従六位瑞宝双光章	

勲四等瑞宝章
（瑞宝小綬章）

勲五等
双光旭日章
（旭日双光章）

（　）内は制度改正後の名称

●勲五等双光旭日賞を受章

石原　和眞（かずま）氏（七八歳・石原）

政府は４月29日付で、平成10年春の叙勲を発表。奄美では７人が受章、住用村の元教育長・石原和眞氏（78歳・石原）が教育功労で勲五等双光旭日賞を受章した。石原氏は「皆さんに支えられたおかげ。思い出多い、良い教職生活だった」と喜びを語った

広報「すみよう」平成10年（1998）６月号より

●勲五等双光旭日賞を受章

元井　信一郎氏（七二歳・役勝）

政府は11月３日付で、平成10年秋の叙勲を発表。奄美では５人が受章、住用村の元議会議員・元井信一郎氏（72歳・役勝）が地方自治功労で勲五等双光旭日賞を受章した。元井氏は「この賞は多くの皆さんや支えてくれた議員のおかげ。残された時間を村民のために尽くしたい」と語った

広報「すみよう」平成10年（1998）12月号より

河野　喬次氏（七〇歳・役勝）
●勲四等瑞宝章を受章

政府は四月二十九日付で、平成八年春の叙勲を発表。奄美関係の受章者は八人で、住用村の元県議会議員河野喬次氏（七〇歳・役勝）が地方自治功労賞で勲四等瑞宝章を受章した

また、死亡叙勲においては元住用村議会議員の故・當義二氏（七一歳・城）が勲六等単光旭日賞を受章し、遺族らに手渡された

授章した河野氏は「感謝感激でいっぱい。特別実績もありませんが、名誉ある大章をいただきますことに恐れ多く恐縮の極みです。これも長い間ご支援・ご指導下さった全郡民のおかげと感謝しています。これからも健康に気をつけ、誠実な県民の一人として頑張っていきたいと思います。」と答えた

また、一昨年、郵政功労で勲五等瑞宝章を受章した中山八ヱ子さん（八八歳・城）が広報に掲載されていなかったので、ここに受章の報告をいたします

広報「すみよう」平成八年六月号より

▶（写真の中央）一昨年勲五等瑞宝章を受章した中山八ヱ子さん（八八歳・城）

1998年（平成10年）８月８日　住用村制施行90周年記念

表彰された方々と感謝状を贈られた方々

表　　彰

＜地方自治功労＞

氏　名	住　所	功　績
前田公正	城	第23～25代村長として村の振興発展に寄与
用稲松男	市	第26代村長として、又第15代議会議長として村の振興発展に寄与
村田正義	西仲間	第４代・第10～11代助役として村の振興発展に寄与
田畑寶山	戸　玉	第12代助役・第8～9･11～13代収入役として又第21代議会議長として村の振興発展に寄与
満永隆範	役　勝	第16代助役として村の振興発展に寄与
伊藤信友	見　里	第７代収入役として村の振興発展に寄与
吉永　保	山　間	第14代収入役として村の振興発展に寄与
榮　實次	市	第15代収入役として村の振興発展に寄与

表彰・叙勲

氏　名	住　所	功　績
師玉賢二	城	第16～18代収入役として村の振興発展に寄与
満元　毅	見　里	第19代収入役として村の振興発展に寄与
市田常雄	西仲間	第9～10代・第20代議会議長として村の振興発展に寄与
都　富雄	見　里	第14代・第25代議会議長として、又消防団長として村の振興発展に寄与
元井信一郎	役　勝	第15～16代・第18～19代・第23～24代議会議長として、又果樹農家として村の振興発展に寄与
土屋敬一	東仲間	第22代議会議長として村の振興発展に寄与
昇　千代喜	西仲間	多年にわたり、村会議員として村の振興発展に寄与
師玉憲夫	見　里	多年にわたり、村会議員・農業委員として村の振興発展に寄与
林　正教	川　内	多年にわたり、村会議員として村の振興発展に寄与
田部義和	山　間	多年にわたり、村会議員として村の振興発展に寄与
中　善勇	川　内	多年にわたり、農業委員・消防団員として村農業の振興発展・民生の保全に寄与
富田精詞	見　里	多年にわたり、農業委員として村農業の振興発展に寄与
宅間和夫	和　瀬	多年にわたり、消防団員として民生の保全に寄与
政　栄男	川　内	多年にわたり、消防団員として民生の保全に寄与
川枝清隆	城	多年にわたり、消防団員として民生の保全に寄与
武島　盛	西仲間	多年にわたり、嘱託員として地域の振興発展に寄与
橋本義弘	石　原	多年にわたり、嘱託員として地域の振興発展に寄与
川井慶二	役　勝	多年にわたり、嘱託員として地域の振興発展に寄与
屋島正光	東仲間	多年にわたり、嘱託員として地域の振興発展に寄与

＜教育文化功労＞

氏　名	住　所	功　績
山下文武	名瀬市（西仲間）	第11代教育長として村教育の振興発展に寄与
石原和眞	石　原	第12～14代教育長として村教育の振興発展に寄与
柳瀬賢治	城	第16～17代教育長として村教育の振興発展に寄与

＜社会福祉功労＞

氏　名	住　所	功　績
松原めやる	西仲間	本村の最高齢者（104歳）
林　藤江	摺　勝	多年にわたり、民生委員として民生の安定に寄与

＜産業振興功労＞

氏　名	住　所	功　績
松元栄三	役　勝	永年にわたり、村農業の振興に寄与
原　俊弘	山　間	永年にわたり、村農業の振興に寄与

＜スポーツ功労＞

氏　名	住　所	功　績
田原貞夫	名瀬市（城）	相撲を通じて本村のスポーツ振興発展に寄与

感謝状贈呈

氏　名	住　所	功　績
嘉納大信	戸　玉	多年にわたり、本村の教育・福祉の振興発展に寄与
盛島秀史	山　間	多年にわたり、本村の教育・文化の振興発展に寄与
岩崎産業株式会社 社長 岩崎福三	鹿児島市	村の教育振興に多大な協力
奄美文化財団 理事長 原野喜一郎	山　間	本村の観光・文化の振興発展に多大な貢献
市子ども会育成会		多年にわたり地域の伝統文化等の継承推進に寄与
住用水泳スポーツ少年団育成会		多年にわたり、村社会教育の振興発展に寄与
東城相撲スポーツ少年団育成会		多年にわたり、村社会教育の振興発展に寄与

平成10年8月8日　村制施行90周年記念式典・祝賀会

かわいい踊りで祝賀会を盛り上げた
東城保育園の園児の皆さん

寿村長から社会福祉功労賞を受ける
松原めやるさん